

事業紹介・事業報告

河川環境展2004出展



竹田正彦
調査第一部
上席主任研究員

1. はじめに

「河川環境展2004」が、自然と調和した、安全で美しい河川環境の実現と理解を目指して、河川環境展実行委員会（委員長：玉井信行 金沢大学教授／東京大学名誉教授）の主催により、国土交通省等の後援の下、平成16年11月23日～11月26日、日本コンベンションセンター（幕張メッセ）において開催されました。河川環境展は、平成10年の初回から今回で第7回目を迎えました。JICEは、昨年に引き続き、協賛するとともに出展しましたので、その概要を以下に報告します。

2. 河川環境展2004の概要

2.1 開催概要

61社・団体が出展し、来場者数は10,797人でした。展示会場は、次の5つのテーマ毎にゾーン分けされ、JICEは「住民参加と環境教育」に出展しました。

- ① 河川・流域管理技術／基礎観測技術
- ② 水環境保全技術
- ③ 河川環境保全技術
- ④ 災害復旧（防災）技術
- ⑤ 住民参加と環境教育



写真-1 展示会場の様子（写真手前が河川環境展）

2.2 企画展示

上記の5つのテーマとは別に、次の3つが企画展示として、開催されました。

(1) 環境教育ミュージアム

平成13年度から千葉市内の小中学生を総合学習の一環として河川環境展に招待しており、今年度も千葉市立の小学校4校から合計約500人の生徒・児童が参加しました。来場した子供たちは、展示会場内に設置された「環境教育ミュージアム」を訪れ、ファシリテータと呼ばれる指導員とともに水について学んだ後、川のなんでも相談員の引率により出展者ブース数箇所を順次見学し、その後の時間内で自由に展示会場内を見学しました。JICEのブースにも多くの子供たちが訪れました。



写真-2 環境教育ミュージアム

(2) 川のなんでも相談コーナー

河川分野の企業・団体のボランティアから構成される「川のなんでも相談員」が来場した方の様々な疑問・質問に答えるコーナーです。

(3) 川の掲示板

地域や流域での様々な川に関する活動をポスターやパネルで紹介するもので、今年は大学、研究機関からの参加も始まりました。

2.3 同時開催の展示等

河川環境展は、昨年度と同様、ウェステック2004（廃棄物処理・再資源化展）と第5回農林水産環境展と同

時に開催され、展示会場も隣接するホールに設けられました。各展示への入場者は、他の展示を自由に往来できるようにし、より多くの方に展示をみていただく工夫もなされました。

また、河川環境展2004併催シンポジウムとして、河川環境展実行委員会の主催により、「変革と水の21世紀－水を中心とした社会システムを考える－」をテーマに、基調講演及びパネルディスカッションが、11月24日、展示会場に隣接する国際会議場で開催されました。

3. JICE出展概要

自主研究として取り組んできた小型卓上水理模型について、概要説明のパネルとともに、小型卓上水理模型の実物を展示し、実際に通水して河床変動の様子を再現しました。また、同様に自主研究で取り組んでいるJIOCE式高速連続ミキサの概要について、パネルとともに、ビデオを放映して紹介しました。



写真-3 JICE展示ブースの様子

3.1 小型卓上水理模型

小型卓上水理模型（米国ではマイクロモデルと呼ばれています）は、実際の河川を数千分の一から数万分の一に縮小した極小水理模型で、卓上に載せることが可能な大きさの模型です。小さな模型ですが、河川で生じる河床変動などを再現することが可能であり、専門知識が無

い方にも洪水の現象を分かりやすく説明することが出来るので、様々な立場の人々の合意形成に役立つツールとなります。

3.2 JIOCE式高速連続ミキサ

JIOCE式高速連続ミキサは、骨材とモルタルを連続して計量、供給し、重力を利用して落下練混ぜ、コンクリートを製造するもので、落下エネルギーを利用することにより、消費電力が少なく、環境負荷が小さいコンクリート製造システムです。

3.3 出展の状況

小型卓上水理模型は、実際に手を触れることができることもあり、子供たちにとっても人気がありました。また、一般の方からも、模型の使い道などについて、多くの質問があるなど、小型卓上水理模型が幅広い方の興味を引くものであることが確認できました。



写真-4 模型の説明を熱心に聞く子供たち

4. おわりに

河川環境展への出展により、JICEの取り組みを広く紹介することができ、また、河川環境展の充実に貢献できたと考えております。このような事業の実施を通じて、河川環境に対する国民の理解が深まり、我が国の河川環境の整備が今後一層進むことを期待しております。